opusdei.org

53. ニケア公会議で 何が起こりました か?

第1二ケアア公会議は最初の 公会議です。すなわちキリス ト教徒が存在するあらゆる地 域の司教たちが一同に会した という意味で普遍的な性格を もつ会議でした。

2014/02/04

この公会議は、教会が安定した平和 を享受することができ、公に集会を 開くことが出来ようになった状況下 で開催されました。会議は325年5月20日より7月25日の期間で開催されました。その会議には、つい最近まで行われていた迫害の中で信仰を貫いたがために刑に処せられ体に傷を負った司教たちも参加していました。

その会議が行われた時にはまだ洗礼 を受けていなかった皇帝コンスタン ティヌスは司教たちの参加を容易に するために、帝国の駅舎を彼らが旅 行に使用できるように開放し、ま た、ニコメディアの皇帝住居に近 かったビティニアのニケアで司教た ちをもてなしました。324年にリキ ニウスに戦いで勝ち帝国の再統一を 図ったばかりの皇帝にとって、この 会議は非常に時官を得ていると思え たのでした。また、同時に、イエ ス・キリストの真の神性を否定する 司祭アリウスにより揺れていたキリ スト教会の統一を図りたいと考えた のでした。318年以来、アレクサン

ドリアの司教アレクサンダーと対立 していたアリウスは、エジプトの全 司教による教会会議において破門さ れていました。その後アリウスはア レクサンドリアを抜け出し、友人で あったニコメディアの司教エウセビ オスのもとに逃れました。

公会議の教父の中にその当時の最も 重要な聖職者も含まれていました。 公会議の司会を務めたと思われるコ ルドバの司教オージオも参加してい ました。他の出席者の中には、当時 は助祭であったアタナシウスを伴っ たアレクサンドリアの司教アレクサ ンダー、アンカラの司教マルケロ ス、エルサレムの司教マカリオス、 カッパドキアのカイサリアの司教レ オンティウス、アンティオキアの司 教エウスタティオス等がいて、その 他に高齢のために出席できなかった ローマの司教の代理を務めた数名の 司祭がいました。更に、アリウスの 友人であったカイサリアのエウセビ

オスやニコメディアのエウセビオス、その他何人かのアリウス支持者も出席していました。全部で約300人もの司教が参加していました。

皇帝コンスタンティヌスの好意をあ てにしたアリウスの支持者たちは、 公会議はただちに自分たちの主張を 受け入れるだろうと考えていまし た。しかしながら、ニコメディアの エウセビオスが、キリストは高く傑 出しているが人間以上ではなくまた 神性がないと述べて口火を切ったと き、出席者の大多数はただちにその 主張は使徒たちから受け継いだ信仰 を裏切るものであると気づきまし た。重大な混乱を避けるため、公会 議の教父たちは、カイサリア教会の 洗礼用信条をもとに、信条を作成し ました。その信条は、キリスト教の 最初の時代から受け入れられ認めら れた信仰の真の宣言を総合的かつ明 白に反映したものです。その信条で は、イエス・キリストは「父と同じ

本質、神よりの神、光よりの光、真の神からの真の神、造られずして生まれた、父と同一実体である」と謳われています。二人の司教を除く、すべての公会議の教父たちはこの信条をニケア信条として325年6月19日に承認しました。

この根本的な問題に加えて、ニケア 公会議では、復活祭の日を、ローマ の教会と多くの教会の慣習に従い、 春の最初の満月の後の最初の日曜日 とすることを決定しました。また教 会内部の運営に関するさほど重要で ない規律上の問題も議論されまし た。

最も重要な議題である、アリウス派 異端の危機に関しては、しばらくし てコンスタンティヌスの支援をあて にしたニコメディアのエウセビウス は司教座に帰り着くことが出来、皇 帝自身もコンスタンティノープルの 司教にアリウスを教会との交わりに 復帰させるように命じました。一方、アレクサンダーの死によりアタナシオスはアレクサンドリアの司教となりました。4世紀における教会の中で最も偉大な人物の一人であったアタナシオスは、極めて優れた見識をもってニケア信条を擁護しまりたが、まさにそのために皇帝により国外へ追放されてしまいました。

アリウス派の考えに近い歴史家のカオをピウスに近い歴史家のカーをできませる。これでは、コケアの影響をいるさいの表でできませる。と述れは事実を歪めた記録でする。

入手可能なあらゆる諸文献を調べる と、確かにコンスタンティヌスは二 ケア公会議の開催を容易にし、実際 その会議に影響を与え、そしてあら ゆる協力をしたと言えるでしょう。 しかしながら、文献を更に深く調べ ると皇帝は二ケア信徒の作成に何ら 影響を与えていないことが分かりま す。というのも、そこで議論された 問題で采配をふる神学的知識を持ち 合わせていなかったからです。特に 公会議で承認された信条は、アリウ ス派に傾いていた皇帝自身の考え方 にはそぐわないものでした。皇帝 は、イエス・キリストを神ではなく 卓越した人物であると考えていたの です。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/53nikeagong-hui-yi-dehe-gaqikorimashitaka/ (2025/12/02)